

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 5月22日更新

事務事業名		小中学校卒業記念品贈呈事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	3	教育の健康			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	右田 純司
	施策	9	義務教育の充実			所属課	学校教育課	担当者名	齋田 奏子
	施策の柱	33	徳育の推進			所属班	学務指導班	(内線)	2227
予算科目		会計一般	款10	項2	目1	事業連番10642 他	根拠法令	なし	
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)		
						成果優先度評価結果		⑫	
						コスト削減優先度評価結果		⑥	

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	小中学校を卒業する児童生徒に、小中学校の教育課程の修了を祝い、母校への愛着を持ち、誇れる郷土を記憶に残してもらうため、卒業の記念となる品を贈呈する。
【業務の流れ】	記念品選定業務、単価契約業務、記念品単価契約、購入支払い事務
【主な予算費目】	報賞費
【意見や要望】	なし

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
卒業記念品として小学校では英和辞典を選定、中学校では印鑑を選定し、それぞれ単価契約を結び、各学校ごと統一単価で購入し、卒業する児童生徒に記念品を贈った。		卒業記念品として小学校では英和辞典を選定、中学校では印鑑を選定し、それぞれ単価契約を結び、各学校ごと統一単価で購入し、卒業する児童生徒に記念品を贈る。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 児童一人当たりの記念品単価	円	対象児童生徒 (小6・中3) 数の減少に伴う減額	
→ イ 生徒一人当たりの記念品単価	円		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
小中学校を卒業する児童生徒		→ ア 卒業する小学校6年生の児童数	人
		→ イ 卒業する中学校3年生の生徒数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
小中学校を卒業する児童生徒に、小中学校の教育課程の修了を祝う		→ ア 卒業記念品を贈れなかった小学校6年生の割合	%
		→ イ 卒業記念品を贈れなかった中学校3年生の割合	%
* ③ 成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト	
記念品を贈ることで母校への愛着と誇れる郷土を自身の記念に残すため		全体計画	
		～ 年度	
		0	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込
① 活動指標	ア	円	1,400	907.2	1,200	1,028.6	1,200	1,200	1,200	1,200
	イ	円	1,400	1,371	1,600	1,401	1,600	1,600	1,600	1,600
② 対象指標	ア	人	674	670	720	718	720	730	740	750
	イ	人	582	620	630	628	630	635	640	645
③ 成果指標	ア	%	0	0	0	0	0	0	0	0
	イ	%	0	0	0	0	0	0	0	0
投 入 費 量	事業費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	1,517	1,628	2,065	1,635	2,032	2,160	2,260
	人件費	(A) 事業費計	千円	1,517	1,628	2,065	1,635	2,032	2,160	2,260
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	1	1	3	2	3	3	3
人 件 費	延べ業務時間	時間	100	20	16	55	16	16	16	16
		(B) 人件費計	千円	398	74	63	0	63	63	63
	トータルコスト(A)+(B)		千円	1,915	1,702	2,128	1,635	2,095	2,223	2,323

事務事業名	小中学校卒業記念品贈呈事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	---------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由 ☒ 向上余地がない ⇒【理由
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由 ☐ 削減余地がない ⇒【理由
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由 ☒ 削減余地がない ⇒【理由
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由 ☒ 公平・公正である ⇒【理由
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由

3 評価結果の総括（CHECK）

小中学校の教育課程の修了を祝い、母校への愛着を持ち誇れる郷土を記憶に残してもらうため、児童生徒に卒業記念品を贈呈した。

記念品（小学校・国語辞典、中学校・印鑑）については、それぞれに単価契約を結び、各学校ごと統一単価で購入を行った。

価格等も含め、今後も、卒業生にとって有用な記念品の選定について検討を行っていく必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐廃止
☐休止
☐目的再設定
☐事業統廃合・連携
☐事業のやり方改善（有効性改善）
☐事業のやり方改善（効率性改善）
☐事業のやり方改善（公平性改善）
☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策